罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成18（2006）年1月1日から12月31日の間の1年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成21（2009）年9月25日現在

罹患年月日の決め方

① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする

② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

① ICD-O-3 分類の性状 2（上皮内），3（悪性、浸潤性）で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-O-3 分類の性状 1（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない○○腫瘍）で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

精度指標

DCN：24.1%

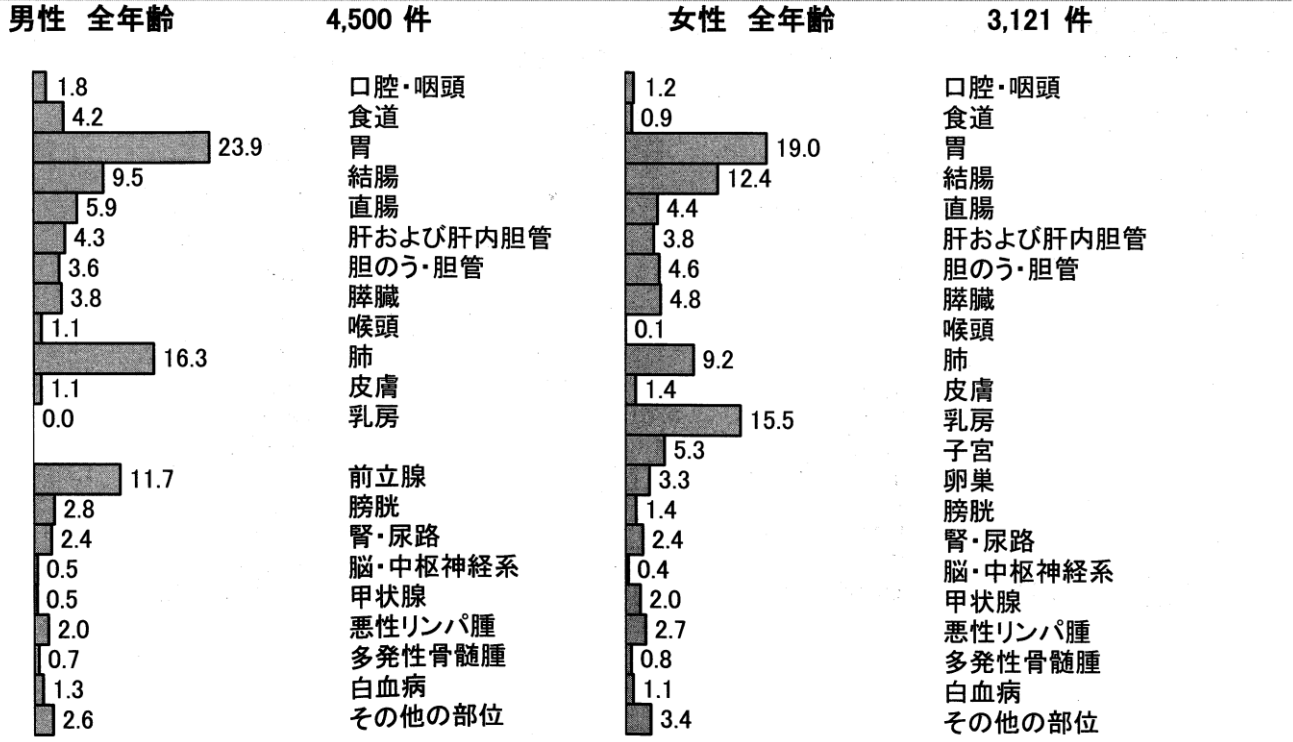
国際 DCO：6.1%

I/M：2.0

■ 罹患の概要

2006 年に山形県において、男性延べ 4,500 件、女性延べ 3,121 件の、合計延べ 7,621 件 のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、肝臓と続く。女性で最も多いがんも胃がんであり、乳房、結腸、肺と続く（図 1）。

図 1 部位内訳（%） （表 1-A から作成）



年齢別に見たがんの罹患

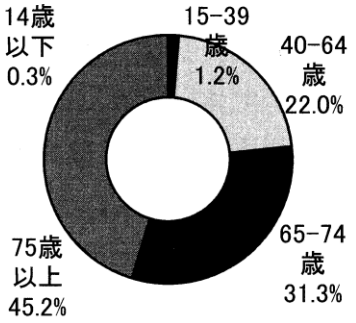
年齢別にみると、2006 年に新たに診断されたがんについて、男性は 3/4/以上、女性は 2/3 以上が 65 歳以上だった。一方、働き盛りの 40-64 歳の年齢層も全体の約 1/4 を占めている（図 2)。

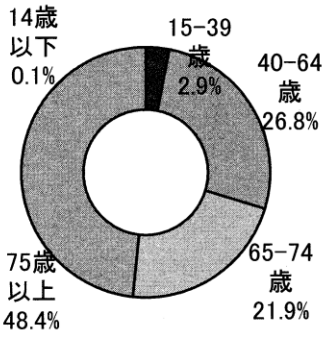
女性の 40-64 歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんと子宮体がんが多いためである。また、女性の 15-39 歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんと乳がんが多いためである。(図 3)

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。主ながんの年齢階級別罹患率をみると、男性の胃がんは 55 歳以上、肺がんや前立腺がんは 60 歳以上から急激に多くなることがわかる。女性の乳がんは、30 歳以上から増え始め、45～49 歳で最も多い。女性の子宮頸がんは 45 歳未満で多いが、その多くは早期がんである。一方、子宮体がんは、45 歳以上から多くなる。

図 2　年齢別内訳（%）　（表 2-A から作成）

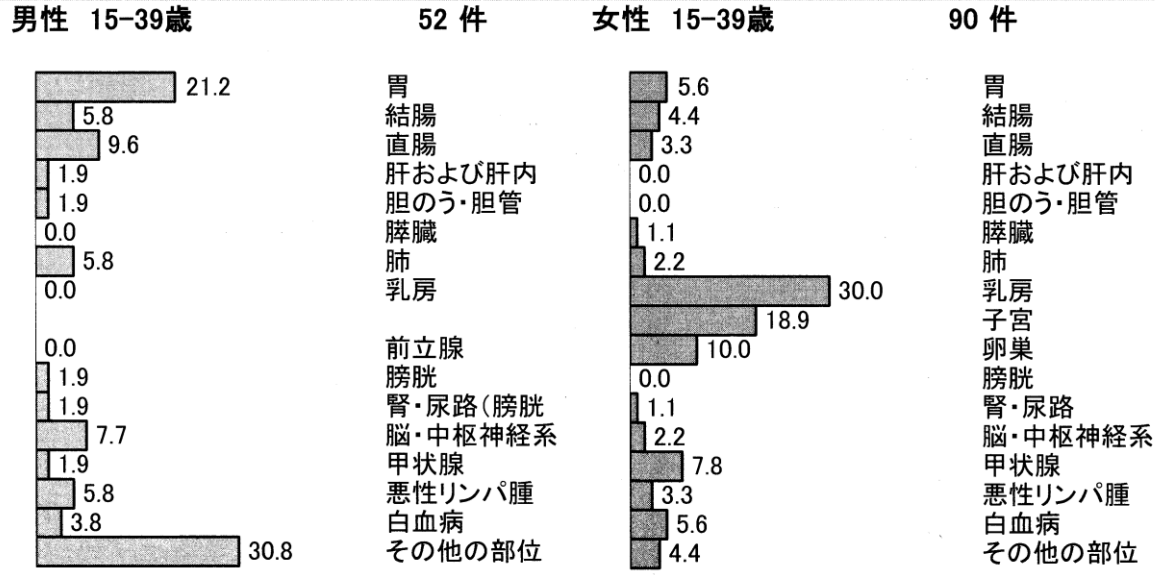
	男性
14歳以下	14
15-39歳	52
40-64歳	990
65-74歳	1,409
75歳以上	2,035
合計	4,500



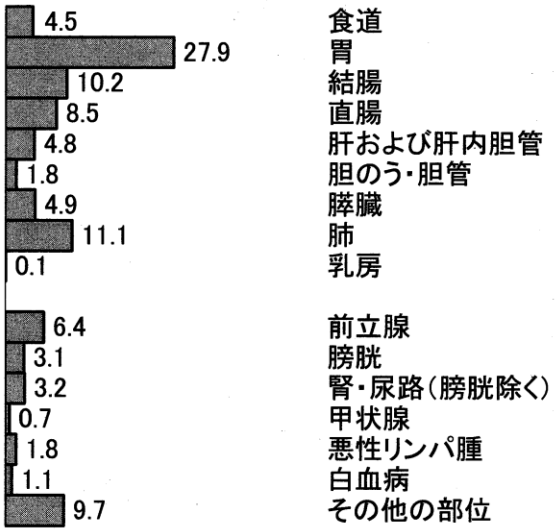


女性	
2	14歳以下
90	15-39歳
835	40-64歳
684	65-74歳
1,510	75歳以上
3,121	合計

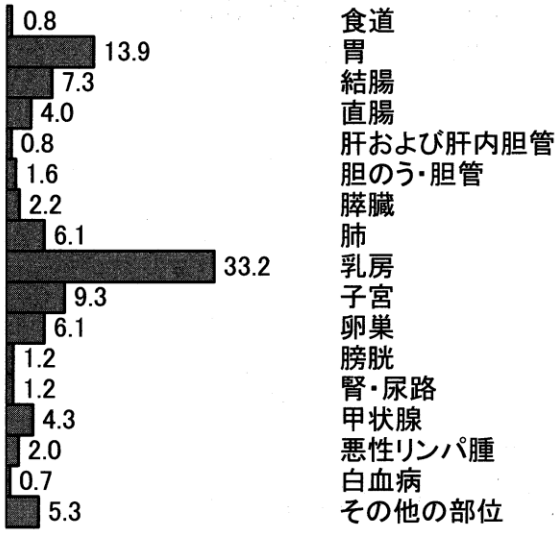
図 3　年齢別部位内訳（%）　（表 2-A から作成）



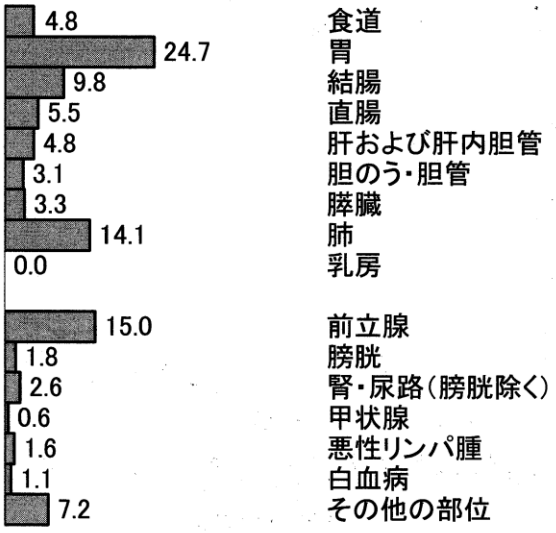
男性　40-64歳　　990 件



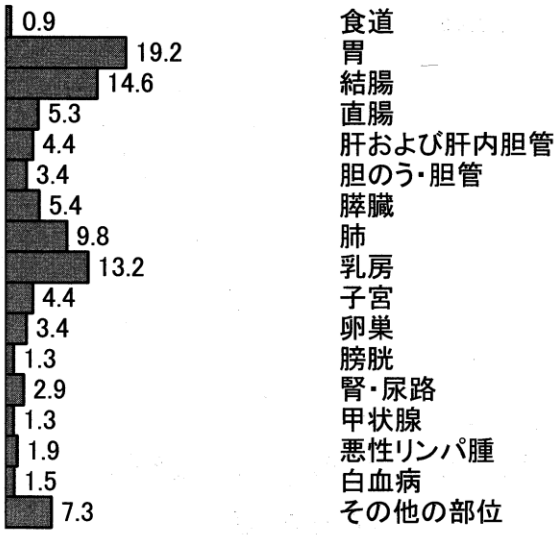
女性　40-64歳　　835 件



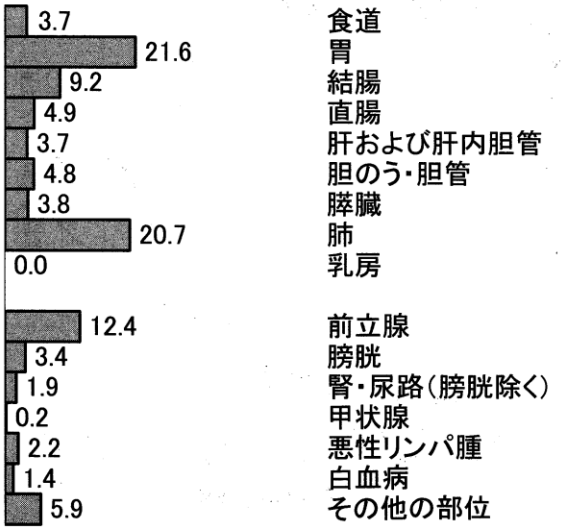
男性　65-74歳　　1,409 件



女性　65-74歳　　684 件



男性　75+歳　　2,035 件



女性　75+歳　　1,510 件

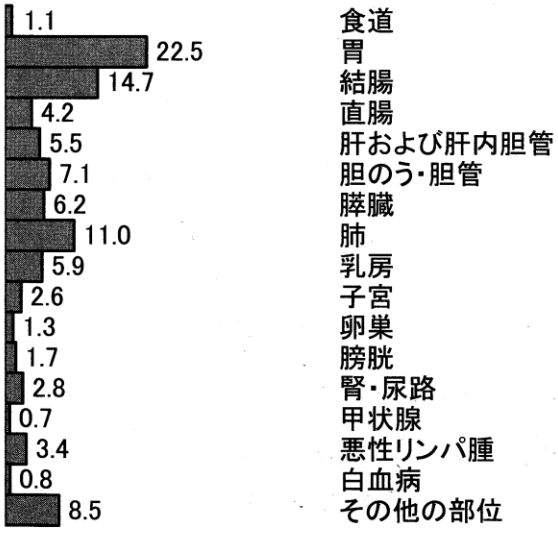
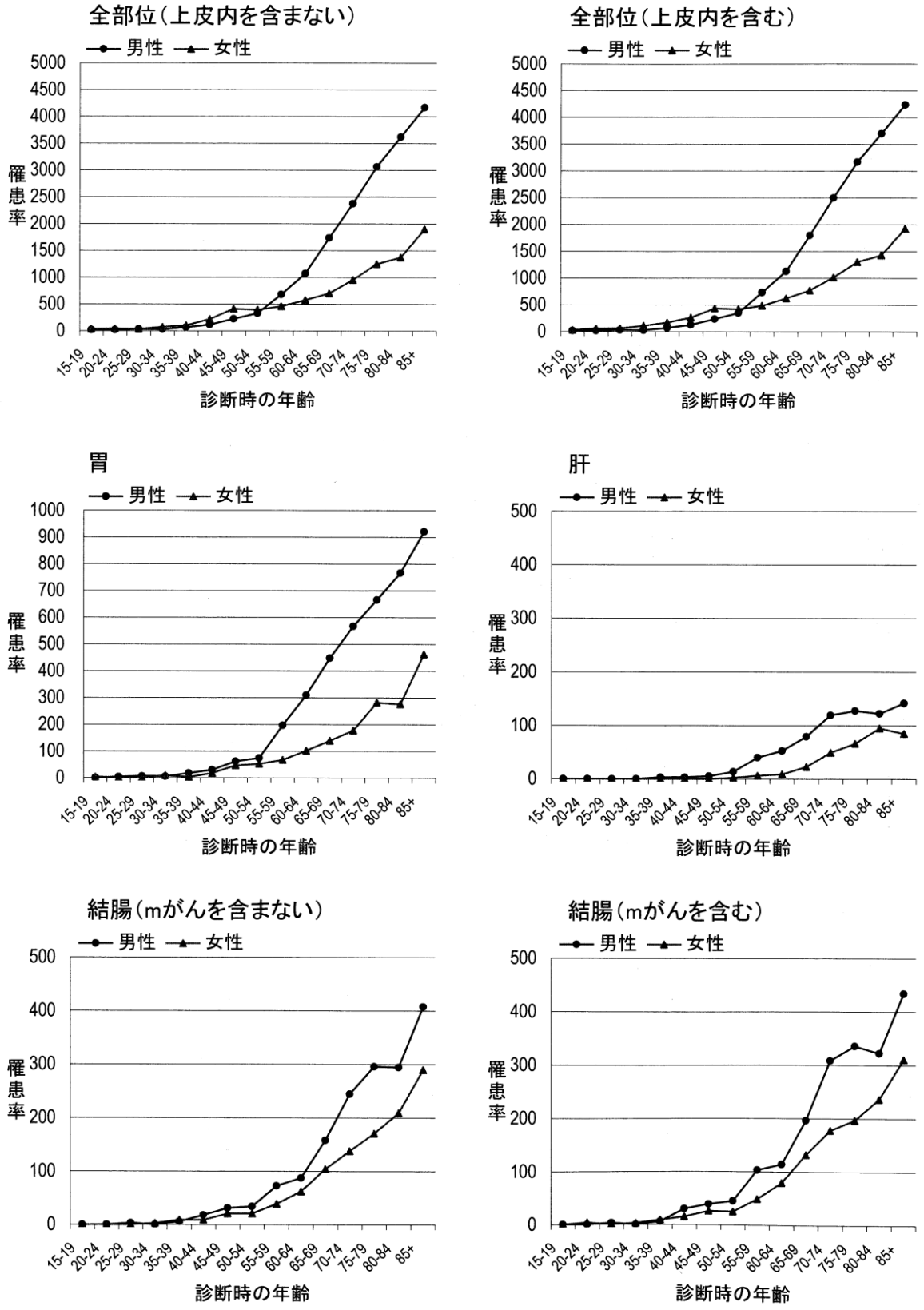
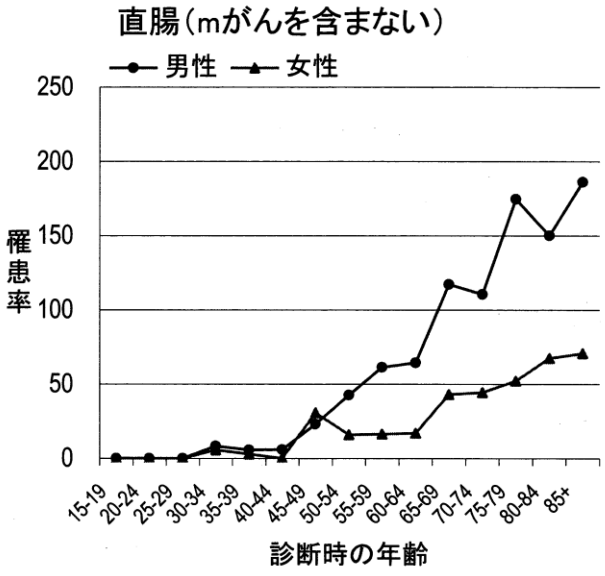
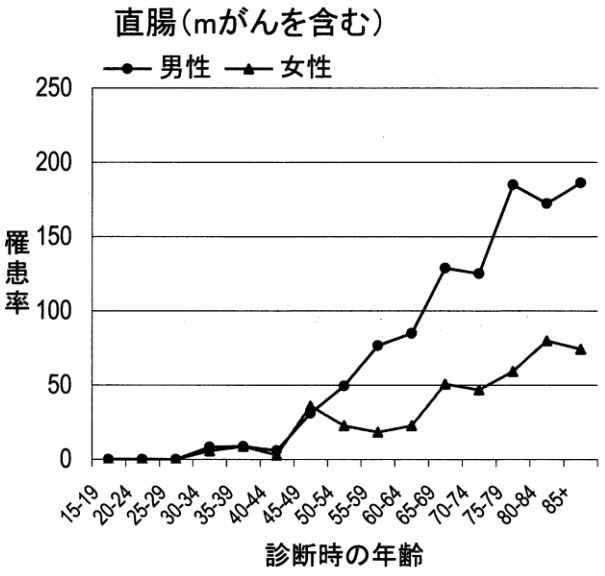


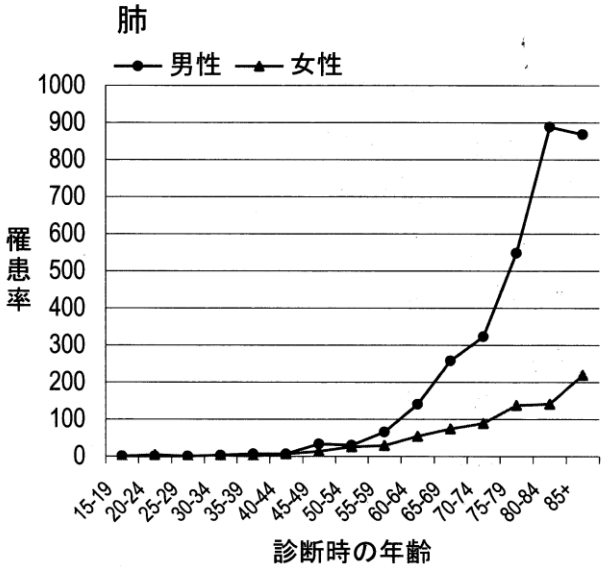
図 4　部位別年齢階級別罹患率：人口 10 万対　（表 3-A、B から作成）

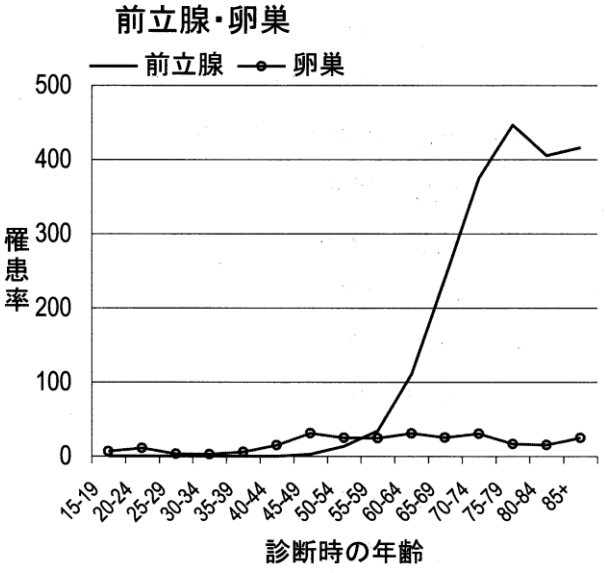


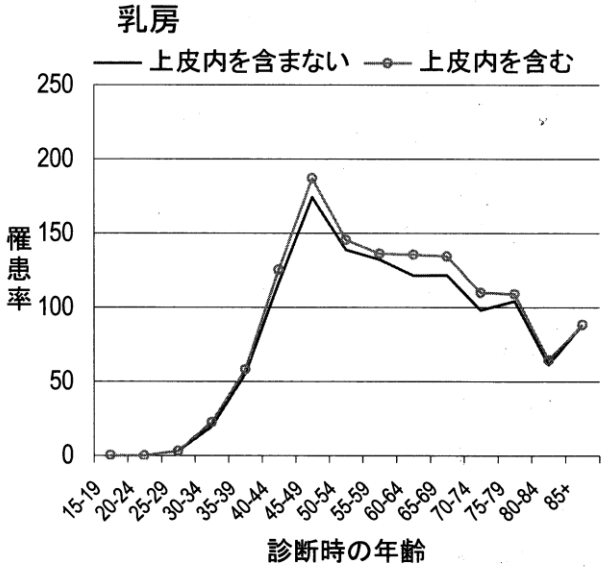
注）m がんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（m がん）は上皮内がんとして扱う。

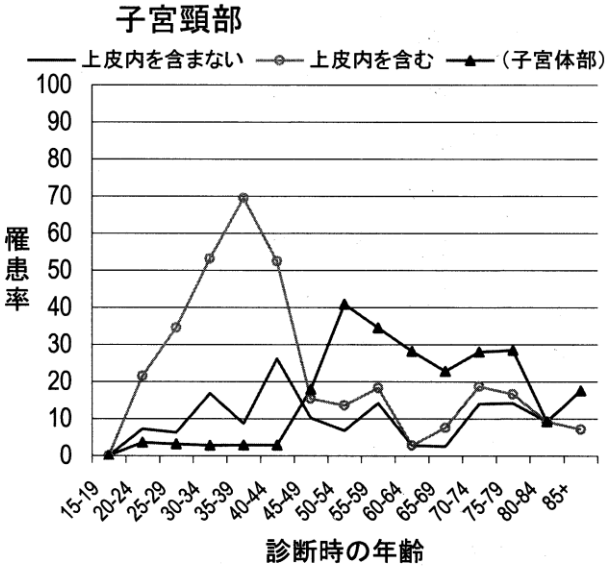

直腸（mがんを含まない）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


直腸（mがんを含む）
男性
女性
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


肺
男性
女性
罹患率
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


前立腺・卵巣
前立腺
卵巣
罹患率
500
400
300
200
100
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

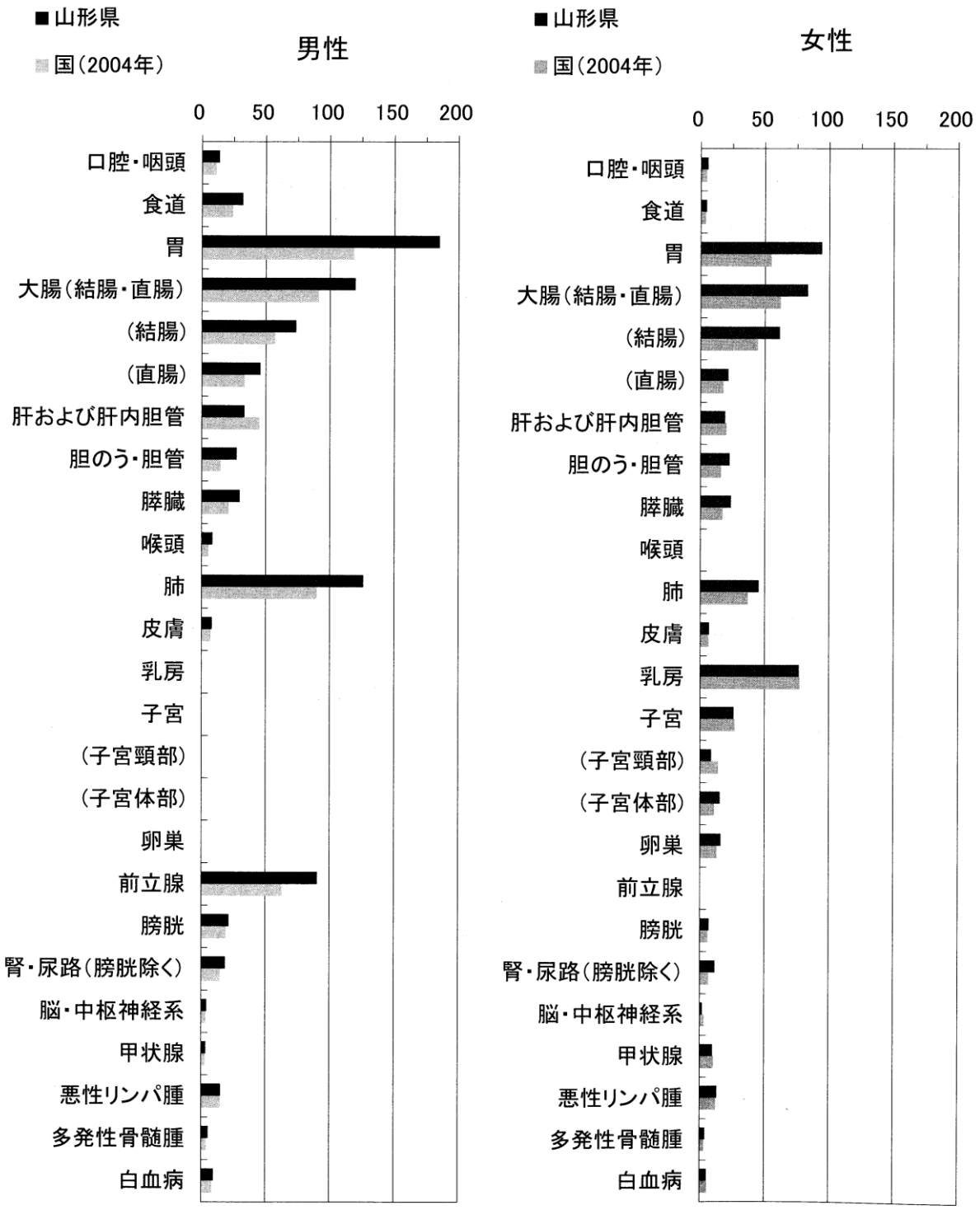

乳房
上皮内を含まない
上皮内を含む
罹患率
250
200
150
100
50
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢


子宮頸部
上皮内を含まない
上皮内を含む
（子宮体部）
罹患率
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
15-19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-44
45-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70-74
75-79
80-84
85+
診断時の年齢

山形県のがんの罹患の特徴

ほぼ全ての部位において、日本全体の推計値と比較して罹患率が高いが、女性ではその差が小さい。特に、男女の胃、結腸、男性の肺、前立腺において差が大きい。男性の肝及び肝内胆管は、全国値よりも明らかに罹患率が低い。

図 5　部位別がん罹患率：人口 10 万対　（表 1-A から作成）



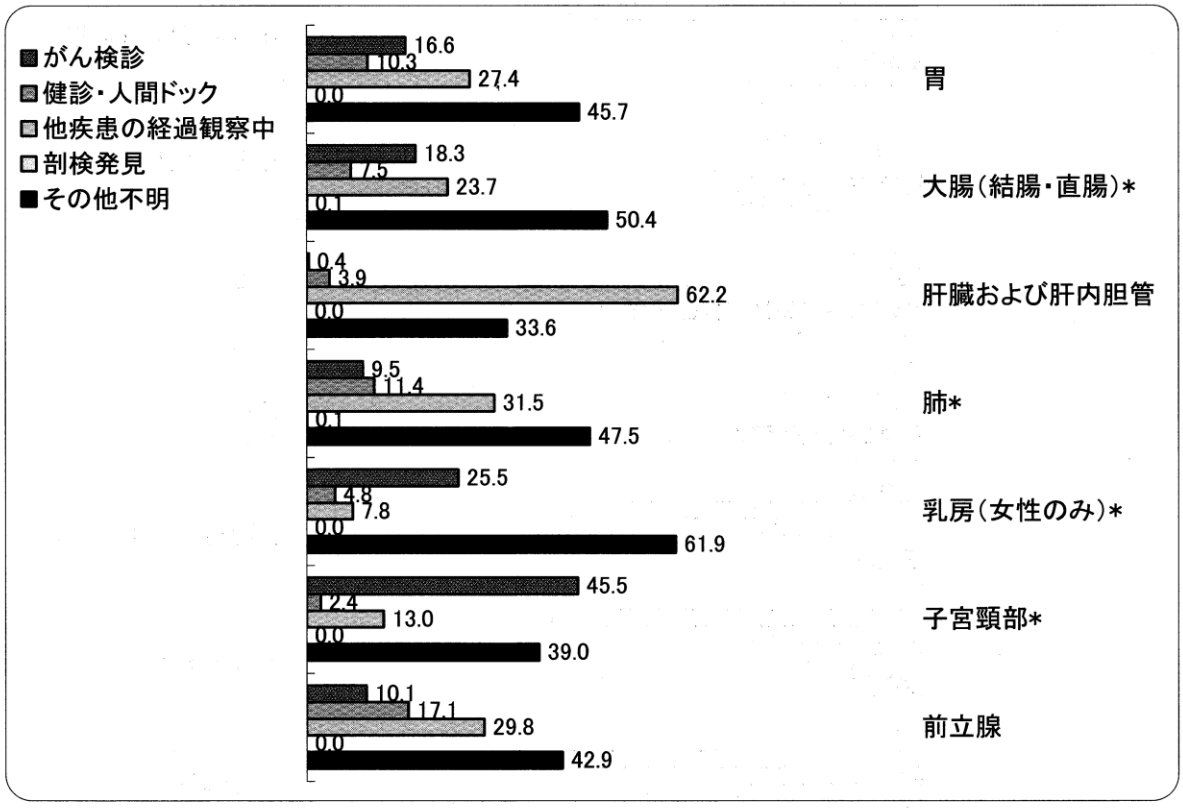
国の値は、がん対策情報センター発行　「全国がん罹患モニタリング集計　2004 年罹患数・率報告」より引用。

発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃　26.9%、大腸　25.8%、肺 20.9%、乳房　30.3%、子宮頸部　47.9%であった。前立腺においても、がん検診・健康診断・人間ドックが発見の契機であった症例の割合は 25%を越えている。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見によると考えられる。前立腺において、他疾患の経過観察中が比較的多いのは、前立腺肥大やPSA 高値の経過観察中の発見によると考えられる。

図 6　部位別発見経緯（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 4-A、B から作成）

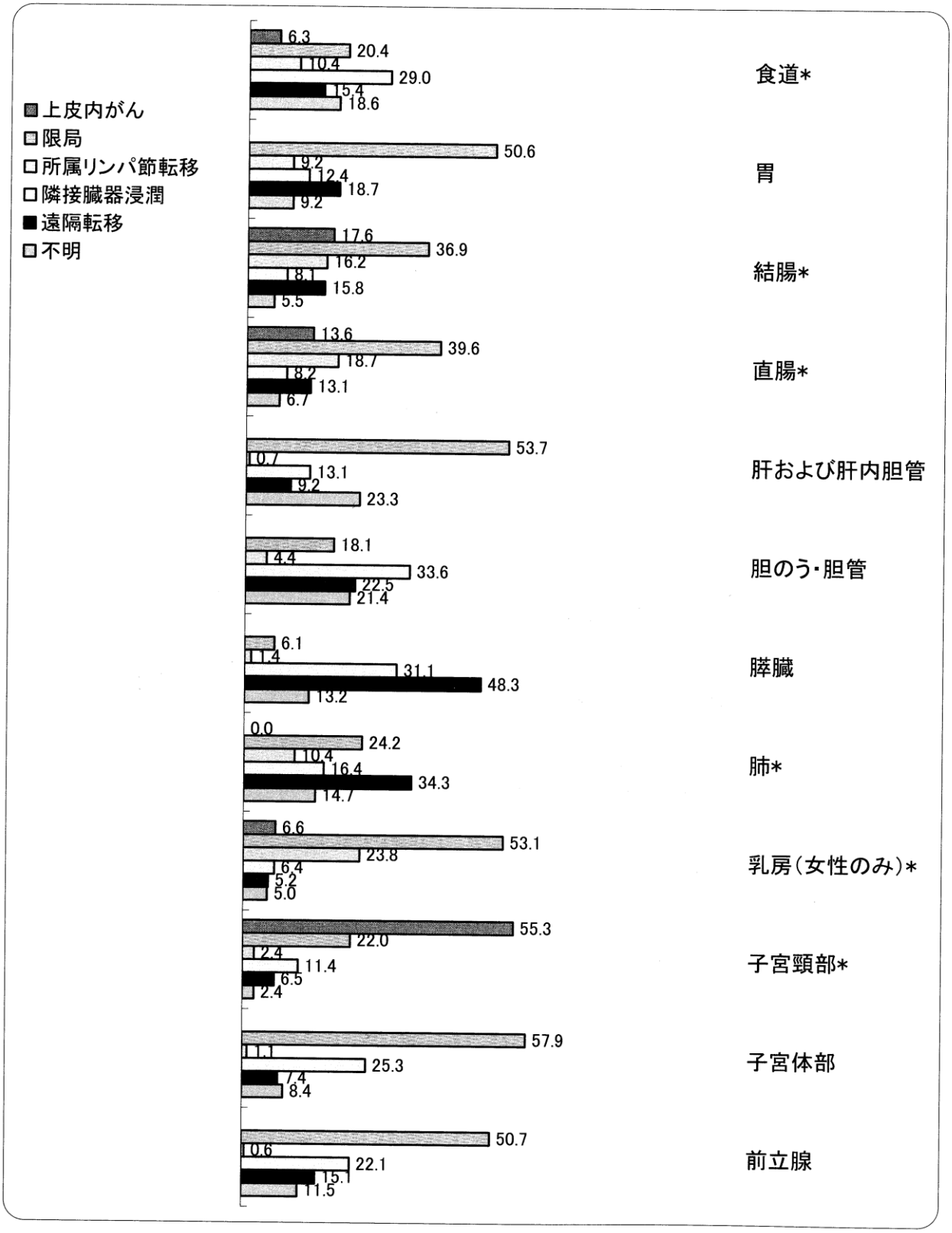


*　上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高い。昨年と比べて、乳がんと子宮頸部がんの上皮内がんの割合が増加している。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。胆のう・胆管、膵臓といった腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位では、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図 7　部位別発見時の病期（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 5-A、B から作成）

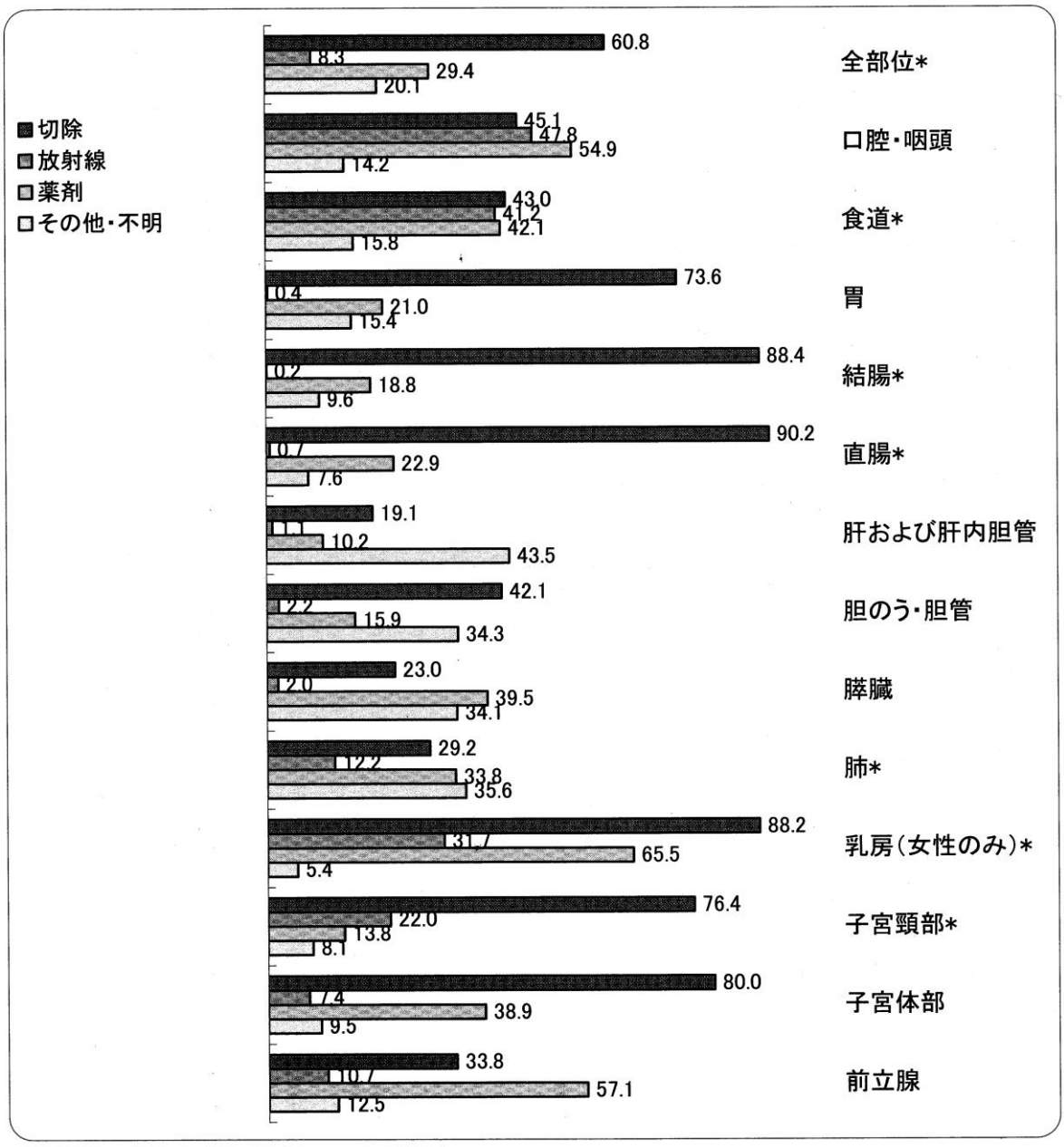


＊　上皮内がんを含む
胃の限局には、m がんを含む。
結腸・直腸の上皮内は、m がんまでを指す。
子宮頸部の上皮内は、CIN3 を含む。

初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮、腎・膀胱、甲状腺、皮膚では、手術などの外科的治療の割合が高い。口腔・咽頭、食道、喉頭、乳房、子宮頸部、脳では、薬剤や放射線による治療も比較的多く行われている。肺では、手術と薬剤（化学療法）が同じ程度行われている。前立腺の薬剤による治療は、ほとんど内分泌治療と考えられる。

図 8　初回治療の方法（%）：対象は国内 DCO を除く届出患者　（表 6-A、B から作成）



＊　上皮内がんを含む
切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。
薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。